

高品質・安定生産に向け、 健苗育成スタート！

長岡農業普及指導センター
稲作情報No. 1

代表電話 0258-38-2554
E-mail ngt111440@pref.niigata.lg.jp

平成28年の長岡地域のコシヒカリ 1 等級比率は82.9%と、目標の90%を下回りました。格落ち要因としては、白未熟粒の他、例年になく胴割れ粒が多く見られるなど、夏季の高温に対する対応が不十分だったものと考えられます。

平成29年は、下記の最重点技術を中心に基本技術をもう一度見直し、確実に実践することで、全地域で目標収量の確保と 1 等級比率90%以上をめざしましょう。

特に、苗づくりは、初期生育に大きく関わり、その後の管理(最重点技術)にも大きな影響を与えます。平成29年産米の高品質・安定生産に向け、「健苗育成」を実践しましょう！

平成29年 最重点技術

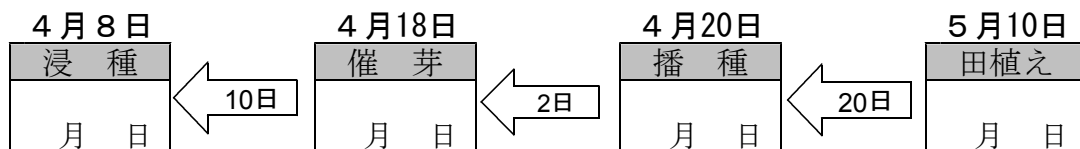
- 適期中干し開始
[目的：茎数過剰と下位節間伸長抑制、地耐力確保]
- 生育診断に基づく穂肥施用
[目的：指標値に沿ったもみ数確保、第1・第2節間伸長抑制、
稲の栄養維持]
- 登熟期間における飽水管理の徹底
[目的：土壌からの窒素吸収を促すことによる稲の栄養維持]

～ 健苗育成の5つのポイント ～

1 作業計画

- 適期に、目標とする健苗を植えることが最も重要です。
田植日から逆算した作業計画を立てましょう！
 - ※ 老化苗を適期に植えても、活着や初期生育が大きく低下します。
 - ※ 5月に入ると暖かい日が増え、遅い播種日のものは、育苗期間が短くなります。老化苗にならないよう、予め育苗日数を短めに見積もり、作業計画を立てましょう。

< 作業日程例（加温稚苗の場合[育苗日数18～20日がめやす]） >



あなたの場合は？ 計画を書き入れましょう！

- コシヒカリの適期田植は、5月10日以降です。
 - ※ 5月10日以降の田植で、高温登熟による品質低下のリスクが回避されます。
 - 一方、極端な遅植えは、冷害や日照不足などのリスクを伴いますので避けましょう。

2 浸種・種子消毒、育苗ハウスの準備

- 種子の休眠は平年並みと予想されています。
- 浸種は籾容量の2倍程度の水量とし、水温10～15℃で積算水温100℃をめやすに実施しましょう。
- 発芽揃いを良くするため、特に浸種開始時の水温は必ず10℃以上を確保してください。
- 温湯消毒の場合は、浸種中の水の更新を早めに行いましょう。
- 温湯消毒と微生物農薬による処理を併用しましょう。
※ 温湯消毒または微生物農薬単独使用では併用に比べて効果が劣ります。
- 催芽は28～30℃の水温で2日間程度行います。
※ 30℃超の高温は細菌性病害の発生を助長、28℃未満の低温では、ばか苗病の発生を助長
- 催芽終了は、ハト胸状態がめやすです。途中で状況を確認し、芽の伸ばしすぎに注意しましょう。



- 稲ワラ・もみ殻は、いもち病やばか苗病の伝染源になるので、育苗ハウス内、周辺に放置しないようにしましょう。また、育苗時の敷材としての使用もやめましょう。

3 播種・出芽

- 播種量の目安(稚苗)

1箱当たり播種量(g)	
乾もみ	催芽もみ
130～140	160～175

- 被覆資材の選定例

下資材	上資材	留意点
ラブシート	シルバーポリワ#80	ヤケに注意
ミラシート	—	温度が上がりにくい



○ 乾もみ：140g × 乾もみ：170g × 乾もみ：200g

- 出芽期の目標温度：30℃
- 出芽終了のめやす：出芽長0.5～1cm
- 播種から出芽までの管理注意点

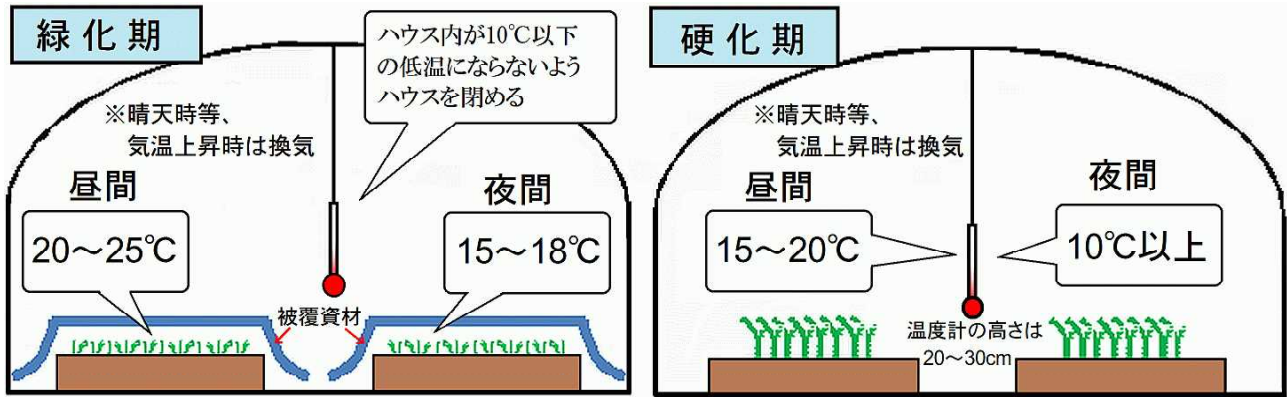
ハウス内温度管理 (被覆管理)	水管理
ア 出芽時に、晴天時で温度が上がり過ぎる場合は換気して温度調節する。 イ 曇天時でも少しの晴れ間で温度が上がるので注意する。 ウ <u>出芽期の高温は細菌性病害の発生を助長するので30℃を超えないようにする。</u>	ア 播種時に十分かん水しておく。 イ 出芽終了時にかん水して緑化に移る。

4 緑化期、硬化期

- 緑化期、硬化期終了のめやす

育苗段階	終了時の生育目標	処理日数
緑化期	第一葉鞘長 3.5cm	2～4日
硬化期	苗丈 12cm 葉数 2.0葉	12～13日

○ 緑化期、硬化期の温度管理のめやす



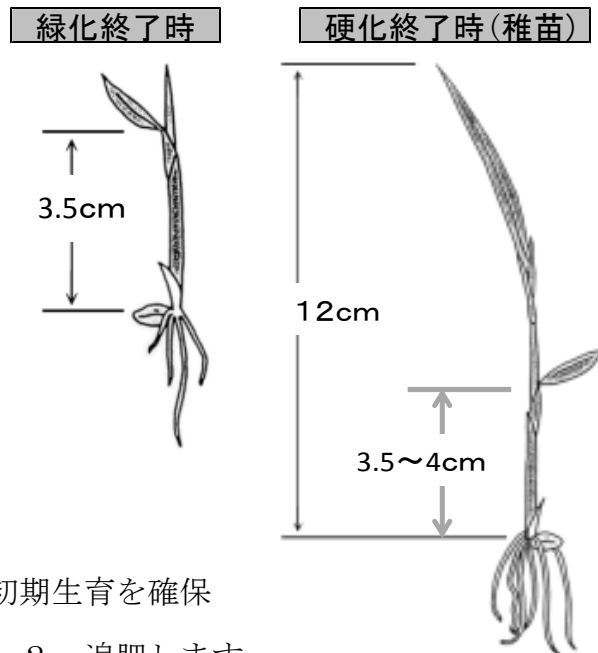
○ 緑化期、硬化期の管理注意点

	ハウス内温度管理(被覆管理)	水管理
緑化期	ア 被覆資材は一重にする。 イ 高温でヤケが発生しないよう温度管理に注意(特に快晴時) ウ 10°C以下の低温にしない。	ア 1日1回、朝(午前10時頃まで)にかん水する。
硬化期	ア 被覆はしない。 イ 降霜が予想される時は被覆する。 ウ 中後期(移植の1週間くらい前)から外気に慣らす。	ア 前半は1日1回程度 イ 後半は乾燥の具合を見ながら1日2回。ただし昼頃までに終了させる。

○ 苗質向上のワンポイント

- ア 苗姿は出芽・緑化期に決まります。伸びすぎないように注意し、目標に近づいたらシートをはぎましょう。
- イ 温度管理に注意しましょう。
※ ハウス内が高温になると病気や徒長、ヤケ苗の発生の原因になります。
- ウ かん水は床土が加湿にならない程度
※ かん水が多すぎると苗のマット形成が不良になります。

○ 緑化期、硬化期終了時の姿



5 移植前追肥(弁当肥)の利用

- 移植前に追肥し、田植え後の活着促進や、初期生育を確保しましょう。
- 移植前の4日前頃に窒素成分1箱当たり1~2g追肥します。
- 移植前追肥のワンポイント

- ア 追肥後は必ず軽くかん水します。
- イ やむをえず老化苗となった場合も移植前追肥は効果的ですが、軟弱苗・徒長苗の場合は施用をやめましょう(苗質の悪化を招くため)。

< 使用例 >

	1箱当たり使用量	窒素成分量
液肥の場合(N成分10%)	100倍に希釈して1箱当たり1リットル散布	1g/箱